

## “好き”のパワー 2022年度卒塾生より

2022年度卒塾生、順に紹介させていただいたが、最後は4人の女の子である。「好きこそもの上手なれ」ということわざがあるように、人は自分の好きなことに対してはのめり込んでいき、自然とその力を伸ばしていくものだ。この4人の女の子達はまさにそうだった。

まずは花の名前を自らの名前に持つHちゃん。中1の終わりに入塾してきた彼女は、自ら温かい光を放っているような、小柄なのにこにことしたかわいい女の子だった。彼女は入塾当初から数学が大好きだった。キラキラとした目で授業を聞く。宿題を出すと喜ぶ。数学の問題を解くことは、彼女にとって趣味と言えるほど楽しいことだった。大好きな数学を中心に力を伸ばして最終内申は44となり、学年順位も一桁を取って、ゆとりを持って千種高校に入学した。きっと高校でも楽しみながら数学を解き、力をさらにぐんぐん伸ばしていることだろう。

二人目はAちゃん。落ち着いた話し方で自分をしっかり持っているAちゃんは、入塾するまで数学は解法を暗記していた。自分で考えて解いてこなかったのだ。入塾して、論理的に考える勉強法に触れた。伸び始めたのはそこからだ。特に伸びたのが英語だった。もともと国語が得意なAちゃんは、SVOCを意識して英文を読むうちに英語のしゅくみがすっきりわかり、どの教科よりも英語が大好きになった。映画を字幕で観て、洋楽もどんどん聴き、英語の文章も読みまくって英語力を楽しみながら伸ばした。春日井南高校に通う今もさらに磨きをかけている。

三人目はもう一人のAちゃん。穏やかな優しい雰囲気反して運動が大好きだった。スイミングの選手育成コースでバリバリ泳いでいた。志望校は部活動の強い高校。選手としてやりきったので、今度はマネジメントをやりたいと思った。他の人を支える立場。自分自身の経験をもとに、選手に対する細やかな思いやりも必要とされる。Aちゃんは適任だった。定期テスト後はいつも消しゴムをかけ終えた問題用紙を渡してくれていた。時間のかかる面倒なことを自分がやって、密かに私の負担をなくしてくれようとしていたのだ。Aちゃんの静かな優しさは心にしみた。進学先の春日丘高校でも大好きな運動を通して周りを支えていることだろう。

最後はMちゃん。小6から入塾して波瀾万丈な4年間だった。元気いっぱいに通った小6、学校に行きづらくなった中1、学校ではほとんど教室に入らなかった中2、復帰して受験までやり遂げた中3。43でスタートした内申は中2で9まで下がったが、最後は42まで戻した。苦しい中彼女を支えたのは、好きな塾を辞めたくないという想いと、自分をあきらめたくないという最後のプライドだった。必死に立ち上がったMちゃん。今も一步一步前に進んでいる。